

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 教師にまっすぐ

02 リレーエッセイ

03 交流事業の紹介

05 加盟校出身学生・卒業生の紹介

06 加盟校の取り組み紹介

07 大学トピックス／編集後記

教師への夢を後押し 特別プログラム「教師にまっすぐ」

教師をめざす高校生のための特別プログラム「教師にまっすぐ」を7月から8月にかけて実施し、78人が受講しました。同じ夢に向かう仲間たちと一緒に、「なぜ学校で学ぶのか？」を考えたり、英語教育やプログラミングなど多様なテーマの課題研究に取り組んだりしました。(記事詳細3ページ)



なぜ学校で学ぶのか、意見を出しあう



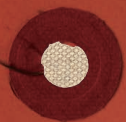
LEDがハート型に光るプログラムを作成



社会科の研究では教科書の記述を比較

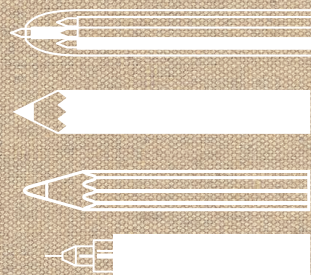


英語教育の研究で国際化とグローバル化の違いを発表



RELAY ESSAY

リレーエッセイ



大学での学び

大阪府立柏原東高等学校 水元 誠致

2020年度から「大学入学共通テスト」が導入されることになり、入試制度の変更に不安を感じている高校生も少なくないでしょう。私も40年前、浪人すれば「共通一次」という未知の渦に巻き込まれてしまう、という焦りの中で受験に取り組んだ覚えがあります。当時は情報量の少なさが不安を増大させたのですが、今は情報の氾濫がみなさんを悩ませているかもしれませんね。しかし、まわりに振り回されることなく、自分を信じてしっかりと取り組んでいけば必ず良い結果が出ます。

さて、みなさん方の中には、何のために勉強するのか、なぜ学校へ行かなければならないのかという疑問を抱いたことがある人も少なくないでしょう。私も高校まで学校が特に楽しかったわけでも、授業がおもしろかったわけでもなかったのも、週の始まりや夏休み明け、特に雨の日は憂鬱でたまりませんでした。当時は知識注入中心の授業ばかりですから、ひたすら覚えるだけの勉強です。教科書、資料集のどこに何が書いてあったかを思い出して答えるだけのテストの繰り返し。特に憧れる先生に出会うこともなく、流されるままに学校へ通う毎日でした。

大学を選ばなければならない時期になると、この疑問は私の中で一層強くなっていきました。自然界でも様々な動物たちが学習行動をします。雛が親鳥から飛び方を学び、チーターの子どもは親から狩りを学んで空腹を満たすことができるようになります。どれも本能からくる行為ですし、生きていくために絶対必要なもので、学ぶ側に疑問を抱く余地はありません。人間も家庭における教育では似たところがあるように思います。しかし、学校における学習活動は違います。人によって学ぶ目的も生き方も違う、自分は何をどう学んでいけばいいのだろうという思いが、私の目を教育学部へ向けさせることになりました。

そんな私が教師になろうと目標を明確にしていくにあたって、大学時代に影響を受けたものが2つあります。一つは自主ゼミへの参加です。ゼミとは大学ではよく使われる言葉で、演習形式の講座や専攻・担当教官ごとの研究単位、研究室を指すことが多いようです。これに対し自主ゼミとは、学生

が自らの意志で行う研究会のようなもので、大学の授業や単位とは関係ありません。私が参加したのは社会科教育について考える集まりです。学年を超えて熱心に教育論や教授方法について語る先輩や友人たちに交じって議論を繰り返しました。時には全国から学生が集まり、互いの研究成果を確かめたり批評するような場にも出席することもありました。社会科という教科について深く学ぶことができたのは当然ですが、誰かに強制されるのではなく自分で学びたいことを見つけ、さらには他の人と意見をぶつけあうことのおもしろさを実感する機会となりました。

もう一つは教育実習です。大学の附属中学校で4週間の実習を行ったのですが、附属の先生方の教育にかける熱意と厳しさに変えられました。特に実習生が行った研究授業に対する検討会はすさまじいものでした。授業を観察したあらゆる教科の先生が集まり、実習生の授業評価だけでなく、担当教官の指導法や授業理論についてまで討議対象にしてしまうのです。まさしく教科対抗の大討論会でした。実習生が発言できるのは初めだけで、途中からは附属の先生どうしのバトルが展開されます。教科が違えば理論も違って当然なのですが、生徒観、教育観がこうも違うのかと驚かされたものです。当時の私には理解できなかったことの方が多かったのですが、先生方の教育、教育実習にかける情熱から、教育者としてのやりがいと責任を学ぶことができたように思います。

今、私が教育に携わる仕事に就いてここまでやってこられたのも、大学でのこうした学びがあったからです。みなさんも大学ですばらしい学びを体験してください。



水元 誠致 みずもと まさのり
大阪府立柏原東高等学校校長



教師をめざす高校生対象特別プログラム 「教師にまっすぐ」

教師をめざす高校生のための特別プログラム「教師にまっすぐ」を7月から8月にかけて実施し、78人が受講しました。府立高校教職コンソーシアム加盟校の生徒たちが、同じ志をもつ仲間として刺激しあい、教師という仕事への理解を深めました。

第1回はグループワークを行いました。「魅力的な先生とは？」をテーマに話し合ったあと、「なぜ学校で学ぶのか？」について考えました。各自が付箋に意見を書いて机に並べ、分類、整理し、ベスト3と少数意見をまとめて発表しました。「コミュニケーション力を身に付けるため」「社会生活に必要な知識や礼儀を学ぶため」などがベスト3にあがり、少数意見には「日本の伝統や文化を学び、後世に伝えるため」といったものがありました。

第2回はオープンキャンパスに参加しました。大学の授業の概要などについて特別講義を受けたあと、専攻別説明会や模擬授業を受講しました。最後に、模擬授業の感想を発表しました。

第3回は、1日かけて課題研究を行いました。教員や大学院生らも加わり、6つのテーマに分かれて学びを深めました。プログラミングのグループは、LEDを光らせたり音を鳴らしたりできる小さな基盤を使い、ボタンを押すとアニメーションや音楽が流れるプログラムなどを作成して発表しました。社会科のグループは、「鎖国」をテーマに複数の出版社の教科書を比較し、同じ事柄でも着眼点によって表現が変わることを踏まえたうえで、自分が教師ならどういう視点に立って教えるか、またどんな教え方をすれば子どもが理解しやすいかを考えました。

参加した生徒たちは、「他校の人たちからたくさん刺激をもらった」「教師になった時に気を付けることなどを学べた」などと感想を語りました。

プログラムを企画した福永光伸教授(教職教育研究センター)は、「教師は、人間の成長に関わることのできる魅力的な仕事です。皆さんが先生になる日を心待ちにしています」と話しました。



魅力的な先生の姿を発表



オープンキャンパスで受講した模擬授業の感想を述べる



小学校の授業作りで重視すべき点を研究



福永光伸教授



学習指導要領改訂に向けて学校作りを考える 教師塾を開催

「新学習指導要領の実施へ向けて」をテーマに、教師塾「教師の学び舎」第8クールを3回にわたり開講し、49人が受講しました。「教師の学び舎」は、府立高校教職コンソーシアム加盟校の教員を対象に、授業力向上や生徒指導、ICT教育など様々なテーマの講義を提供しています。

第8クールは、各回で講師が変わるオムニバス形式で実施しました。庭山和貴特任准教授(大学院連合教職実践研究科)が「生徒の望ましい行動を伸ばす関わり方について考える」、寺嶋浩介准教授(同)が『主体的・対話的で深い学び』の授業をデザインする」、田村知子教授(同)が「カリキュラムマネジメントで学校を変える」と題して講義しました。

庭山特任准教授は、学校における生徒の困った行動について「減らそうと考えるのではなく、望ましい行動を増やすよう誘導することが大切」と解説。望ましい行動の前後にどのような工夫をすれば効果的なのか、グループで話し合いました。寺嶋准教

授は、学習指導要領改訂の方向性と、ICTを活用した授業実践事例を紹介し、「主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ICTの活用が不可欠。先行事例を参考に、新しい授業を構想してほしい」と語りました。田村教授は、カリキュラムマネジメントの考え方や実施手法について講義しました。最初に求められるゴールを設定し、それに向けて指導を計画する「逆向き設計」論をもとに、組織の構造、校風、地域社会や保護者など、関連しあうさまざまな要素を分析し、目標達成や課題解決に向けて計画の立案、実行、改善を繰り返していく方法を説明しました。

参加者からは、「授業の進め方や組み立て方、生徒指導などを振り返るよいきっかけとなった」「他校の教員と討論することで、学校の置かれている現状や今後の展望について理解を深めることができた」「生徒の望ましい行動を増やしていくために、積極的に声かけをしていきたい」などの感想が寄せられました。



庭山和貴特任准教授



寺嶋浩介准教授



田村知子教授



生徒の望ましい行動について話し合う

加盟校出身学生・卒業生の紹介



のざき
野崎 ありさ さん

学校教育教員養成課程教育科学専攻4回生
四條畷高等学校2014年度卒

—高校時代の思い出は？

3年生の時に、文化祭で「眠れる森の美女」の劇をやったことが印象に残っています。衣装や小道具、照明などをクラスみんなで考え、朝や放課後も練習しました。一致団結して作り上げた達成感は忘れられません。

—大教を選んだ理由は？

小学6年生の担任の先生に憧れて、小学校の先生をめざして入学しました。心理学コースを選んだのは、単純に心理学に興味があったのと、小学校の先生になるなら児童の心理を学ぶ必要があると思ったからです。

—現在取り組んでいる活動は？

週1回、小学校にスクールサポーターとして通っています。子どもによって求める支援が全然違い、それぞれに合った関わり方や言葉がけが必要だと学びました。また、職員室にいる時も、先生方が成績をつけた

り学校外の研修に出かけたりする姿を見て、教室以外でもいろんな業務があることを知りました。

—大学生生活を有意義に過ごすには？

大学生になると自由な時間が多いので、少しでも興味を持ったことは何でもやるようにしています。海外でのホームステイや、山間部や離島の学校に行く遠隔地実習にも挑戦しました。大学生の間にいろいろなことにチャレンジしてみるといいと思います。

—おすすめの勉強方法は？

その日にやる内容を紙に書いてから勉強を始めて、後でいつどれ位何をやったかがわかるようにしていました。あとは、国語が苦手だったので、毎日少しだけでも必ず触れるようにしていました。

—高校生にアドバイスを。

授業や行事、部活など、団体で動いて、団結して何かをやりとげるとするのは、高校生の時しか味わえない感覚です。大学の部活やサークルも楽しいですが、高校の部活とは一緒にいる時間の密度が違います。高校生であることを大事にして欲しいです。

つるはら たかゆき

鶴原 隆之 さん

大学院教育学研究科学校教育専攻1回生
清水谷高等学校2013年度卒

—高校時代の思い出は？

文化祭が一番印象に残っています。各クラスで団結する最初のイベントで、みんなの意識が変わるいい機会でした。3年生の時はみんなでオリジナルの脚本を作って演劇をしました。部活は水泳を3年間続け、当時の仲間とは今も連絡を取り合っています。

—学部では理科教育専攻だったのが、大学院はなぜ心理学に？

教師になりたいと思って理科教育専攻に入学しましたが、3回生で教育実習に行き、僕がめざす将来像は教師とは少し違うと感じました。学校に来ることができるということは、ある意味元気な子どもで、本当に助けを必要としている子どもは、教室の外側にいるんじゃないかと。教師ではなく、子どもを支援する仕組みを作る行政機関などで教育支援職として働きたいと考え、教育心理学を学ぶことにしました。

—現在の研究は？

高校生や大学生の進路に関する意識とストレスの関係性を研究しています。教員は離職率が高く、心から

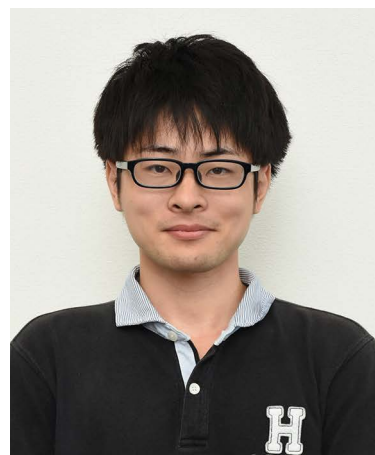
希望して教職についたはずなのに、理想と現実のかい離から辞めてしまう。最終的にはそういうことの解消につなげられたらと思っています。

—部活・サークルは何を？

「パソコンPaPa」というサークルで活動しています。パソコンを使うということをベースに、ゲームや音楽、動画を作ったり、パソコン本体を組み立てたり。僕はもともとパソコンで作曲をしていたこともあって入りましたが、初心者もいます。いろんな趣味の人がいて、お互い認めあい、関わりあえところが魅力です。

—大学生生活を有意義に過ごすには？

4年間でどうなりたいか、そのためにどうすべきか、長期的な計画を立てることが大事です。受験勉強も同じですが、目先にとらわれず、最終的に何をしたいのか、自分を見つめ直すことが大切だと思います。





加盟校の取り組み紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立鳳高等学校

本校は1922(大正11)年、大阪府立第14中学校として創立し、1948(昭和23)年、学制改革により大阪府立鳳高等学校と改称。2021年に創立100周年を迎える、伝統ある学校です。2008(平成20)年より全日制普通科単位制高校に改編され、創立以来続く文武両道の伝統を継承しながら、生徒一人ひとりの「第一志望をかなえる鳳」を合言葉に、日々の教育活動に取り組んでいます。



進学型単位制システム

本校は、「進学型単位制システム」をとっています。単位制といっても学校生活は他の全日制普通科高校とほとんど変わりません。午前8時30分から各クラスでホームルームと10分間の「朝の読書」を行い、そして授業、15時35分から終わりのホームルームを行います。特徴は、約130科目の中から自分の進路目標に合わせた科目を選択し、独自の学習計画を組み立てることができる点です。1年次は、芸術科目以外は全員が共通科目を学んで、基礎学力の習得を図ります。2年次から選択科目の枠が広がり、3年次では学習する科目の約8割が選択科目となります。特に3年次では、前期・後期の半期単位で学ぶ科目も設定されていますので、各自の進路に合わせた最適な科目を、最適な時期に学ぶことが可能です。そして、多様な科目を選択しやすくするために、45分×7限授業を実施して週当たりの授業のコマ数を増やしています。

さらに、単位制により同じ規模の普通科高校と比べて教員が多く、少人数の授業が多いこと、各生徒に対して、科目や進路の選択について丁寧なガイダンスを行っていることも特徴です。

豊かな人間力の育成

放課後になると、ほとんどの生徒たちは部活動に取り組めます。府立高校で有数の広い敷地をもつ学校なので、各クラブがのびのびと活動できます。



体育祭

また、学校祭や修学旅行のほか、1年生の百人一首大会や2年生の英語スピーチコンテストなども好評です。英語スピーチコンテストは、英語の授業の一環として10年以上続いている取り組みです。現在は、ICT環境を整備して、①クラウド型個別学習 ②ワークシートによる一斉学習 ③協働学習 の3つを組み合わせ、4技能統合型の英語授業へと発展させています。夏季休業中には、1・2年生対象に2週間のオーストラリア国際交流研修も実施しています。20名定員ですが、異なる文化の中で、現地の人たちとの交流を通して大きな成長遂げています。そのほか、立命館大学と連携した「法教育プログラム」や、「職業のプロに聞く」など、自分の将来を考えるプログラムを開催しています。



国際交流研修

本校の大阪教育大学出身の先生
理科・1年生担任 折橋将司教諭

【大教大の思い出】

一番の思い出は部活動です。自分たちが部を運営した経験や、部活動をしていなければ関わることがなかった様々な年代・国の方と交流できたことで、自分の中の世界が広がり、価値観が変わりました。



【高校生のみなさんへ】

大教大では、教育について考える仲間や環境が充実していて、“自分が理想とする教師像”を形作っていくことができます。教員採用試験でも、この“教師像”をしっかりと持っていることが大切だと思います。

学校現場を体験する 「学校インターンシップ」説明会

教員の補助や子どもの学習支援などを通して学校現場を体験する「学校インターンシップ」の説明会を開催し、学生約550人が参加しました。

学校インターンシップは、教師の仕事を知ることによって今後学ぶべき課題を見つけ、教職へのモチベーションを高めることを目的としています。

専攻別に複数の教室で行われた説明会では、制度の概要説明のあと、インターン生が実際に学校現場で活動する様子やインタビューを撮影した動画が流されました。また、今年度すでにインターンシップの活動を終えた学生が登壇し、インターン先の学校を選んだ理由や、活動を通して学んだことなどを語りました。学校教育教員養成課程小中教育専攻2回生の飯野湧貴さんは、活動の様子を写真で紹介し、「先生や児童とのかかわりを通して成功したり失敗したりすることは、実際に学校に行かないとできない。学校インターンシップは大きなチャンスなので、ぜひ経験を積んでください」とエールを送りました。



二者択一のゲームで防災を考える セミナーを開催

京都大学防災研究所の矢守克也教授を講師に迎え、NHKセミナー「正解のない教材『クロスロード』で防災を学ぶ」を開催し、学生、教職員ら約150人が参加しました。

矢守教授は、阪神・淡路大震災や東日本大震災の被災者の体験を全国に伝える活動を展開するとともに、災害現場で実際に起こったジレンマを二者択一で判断する防災ゲーム「クロスロード」を開発し、防災教育の新しい形を提案しています。

セミナーでは、参加者たちもクロスロードに挑戦。「愛犬を避難所に連れていくか」「移送中の入院患者を報道カメラマンが撮影しようとした。そのまま撮影させるか」といった正解のない問題にYESかNOで答えを出し、そう考えた理由も述べました。

矢守教授は「実際の災害では、想定外のことが多く起こる。その時になって悩まずに済むように、今回のセミナーのような機会を通して普段から考え、できることをやっておくのが大切」と話しました。



編集後記

朝晩涼しくなってきましたが、暑い夏に行われた「教師にまっすぐ」について触れてみたいと思います。「教師にまっすぐ」は、楽しくてやりがいのある大好きなプログラムで、担当者としても3回目を迎え、今年も受講生の表情に注目しました。開講式直前は不安そうな表情でしたが、表紙及び3ページの写真をご覧ください。特に課題研究の発表では、自信に満ち溢れ、目が輝いていて、発表の内容も胸にジーンとくるものがあります。担当者としては、この時が一番嬉しい時で、この中から大教大に入学し、立派な教師になる者がいると確信する時でもあります。そして、「教師にまっすぐ」をやっていて良かったと思う時でもあります。

(O)

大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter

@OsakaKyoikuUniv



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Instagram

@osakakyoikuuniv

イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。